

(平成 30 年 11 月試験研究業務月報)

試験研究課題：アズキ機械化栽培での難防除雑草の総合防除体系の確立
(平成 30 年度「豆類助成金」)

研 究

外来ホオズキ類*による小豆の汚粒の発生程度を調査

京都府内では防除が難しい外来ホオズキ類による雑草害が約 10 年前から広がっています。特に、小豆をコンバインで収穫する際、ホオズキ類の果汁や茎汁かじゅう けいじゅうによって、小豆に土埃つちぼこりが付着する「汚粒おりゅう」が発生し、商品価値が下がるため、生産現場からは効果的な防除体系の確立を求められています。

そこで、当センターでは小豆のコンバイン収穫における「汚粒」発生防止対策としてホオズキ類の出芽が少なくなる栽培方法と機械除草の効果について調査しています。

11 月 12 日、それぞれの試験区ごとに収穫作業を行い、今後は汚粒の発生程度に加え、収量や収穫時の刈り残しを調査し、効果的な防除方法を検討していきます。

※ 外来ホオズキ類：外国から侵入したナス科の雑草で、実の色は彩やかでなく、利用価値がないが増殖力が強い。



外来ホオズキ類が侵入している小豆ほ場での収穫



収穫した小豆（左）と混入した外来ホオズキ類の果実（右）
小豆には、外来ホオズキの果汁つちぼこりで土埃が付着している